

企画展

# 花粉と花粉症の科学

2016年

12/23 (金・祝)

2017年

▶ 3/20 (月・祝)

国立科学博物館 (東京・上野公園)

日本館 1階 企画展示室

Science of pollen and pollinosis

- 【開館時間】 午前9時～午後5時 (金・土曜日は午後8時まで) \*入館は各閉館時刻の30分前まで
- 【休館日】 毎週月曜日、12月28日(水)～1月1日(日・祝)、1月10日(火)  
ただし、12月26日(月)、1月2日(月・休)、1月9日(月・祝)、2月13日(月)、3月20日(月・祝)は開館
- 【入館料】 一般・大学生 620円 (団体 310円) 高校生以下および65歳以上は無料 \*団体は20名以上
- 【主催】 国立科学博物館、花粉問題対策事業者協議会
- 【後援】 文部科学省、農林水産省、経済産業省、環境省

花粉といえば「花粉症」を思い起こす方も多いでしょう。自然界では、花粉には受粉によって種子を生産し子孫を残すという役割があり、陸上植物の進化の過程で誕生しました。植物にとっての花粉とは何か、その形態や機能、送粉様式などを紹介します。

送粉様式のうちのひとつ、受粉に風を利用する風媒花こそが、いまや国民病ともいわれる花粉症を引き起こす主な原因です。「花粉と人類」という視点から、食用や薬用などの人間による花粉の利用から花粉症の原因となる植物、その発症メカニズムと防御について、最先端の研究内容を農学、医学、工学の各分野から紹介します。

## 花粉の誕生から花粉症まで4つのゾーンで紹介!

### ① 花粉の誕生

～植物にとっての花粉～

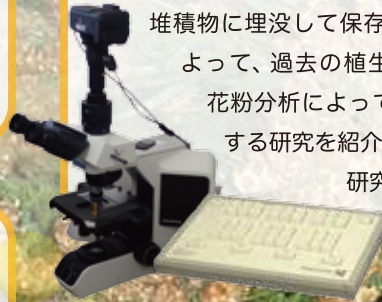
1章では、植物の進化と花粉の誕生について紹介します。花の形は、花粉を運んでもらう様式と関係があります。また、花粉の形も実にさまざまです。模型や電子顕微鏡写真などで見てみましょう。



### ② 花粉は語る

～花粉から何がわかるのか?～

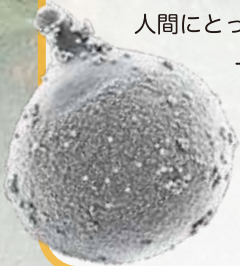
堆積物に埋没して保存された花粉化石を調べることで、過去の植生や環境を知ることができます。花粉分析によって、古植生や気候変動などを推定する研究を紹介し、花粉分析に用いられる独特の研究用具やその手法を紹介します。



### ③ 花粉と人類

～花粉のもつ2つの顔～

この章では、人間と花粉の関わりについて考えます。私たち人間の花粉の食歴は、紀元前、花粉を含む蜂蜜を食べたことに始まります。生薬や最近のサプリメントにも用いられ、人間にとって花粉は薬や栄養源にもなります。しかし、一方で昨今、花粉は人間を苦しめる原因にもなっています。花粉症です。花粉症の原因と歴史、花粉症研究の歴史とともに、世界で花粉症を引き起こす植物とその花粉を標本と電子顕微鏡写真などで紹介します。



### ④ 花粉症の対策

～花粉生成・飛散から予防・治療の最前線まで～

花粉の影響段階ごとに「生成」「飛散」「曝露」「発症」の4つに分けて紹介します。無花粉スギや花粉生成・飛散の予測に関する研究、身近なところでは花粉が付着しにくい衣服やマスク・メガネ・空気清浄機などの開発があります。さらに、花粉症の予防や治療など、最新の医療分野での研究も紹介します。



#### 【関連講演会】

#### 「やさしく説明:JAPOCカンファレンス/ 上野KAHAKU-2017」

【会場】日本館2階講堂 【時間】13:00 - 15:00 【定員】100名

#### ◆ 第1回 1月22日(日)

「花粉症対策の展示内容をJAPOCが詳しく語る ～花粉対策の考え方～」

#### ◆ 第2回 1月28日(土)

「花粉飛散防止に向けた取組 ～スギ花粉発生源対策～」

#### ◆ 第3回 2月5日(日)

「花粉症の治療、ここに注目、ここが重要!!」  
NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会提供 第4回花粉症・市民講座

#### ◆ 第4回 2月25日(土)

「花粉症対策のこれまでを聴き、その未来を探る」

※演題は変更する場合があります。申込方法等詳細はホームページをご覧ください。

#### 【交通ガイド】

##### ◆ JR

「上野駅」公園口から徒歩5分

##### ◆ 東京メトロ 銀座線・日比谷線

「上野駅」から徒歩10分

##### ◆ 京成電鉄

「京成上野駅」から徒歩10分

※駐車場はありませんので、お車での来館はご遠慮ください。



〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20  
TEL: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

<http://www.kahaku.go.jp/>



国立科学博物館  
National Museum of Nature and Science